

第45回「全日本中学生水の作文コンクール」
宮城県地方審査会優秀作品集

『水』について考える

宮 城 県

はじめに

水は命の源です。水は、私たち人間だけでなく地球上のあらゆる生物にとって欠くことのできない貴重な資源です。また、使えばなくなってしまう石油などの化石燃料とは異なり、太陽の恵みによって太古の昔から変わらずに地球上を循環している資源でもあります。

このような循環を通じて、水は私たちの日常生活や社会活動、あるいは自然環境や生態系を支える貴重な役割を果たしています。加えて、最近では、水源や流域における水質の保全、水辺環境の保全と創出、おいしい水への志向など水資源に対する国民のニーズも多様化しています。

一方で、我が国は比較的降水量に恵まれているとはいえ、地形は急峻で平地が狭いため、一人ひとりが利用できる水の量は決して豊富とはいえません。近年、全国のいたるところで渇水が発生し、私たちの社会生活に大きな影響を与えています。

このような状況の中、水循環基本法では、8月1日を「水の日」と定めており、この日を初日とする1週間は、「水の週間」として、国や県が、水の貴重さや水資源開発の重要性などについての理解を深めるための様々な啓発活動を行っています。

「全日本中学生水の作文コンクール」は、こうした啓発活動の一環として、昭和54年から行われており、日常生活での体験や、御家族、先生方から学び聞いた話などに基づいて作文を書くことで、次代を担う中学生の皆さんに、水について考える機会を持っていただくことを目的としたものです。

県内の中学生から応募いただいた作文は、宮城県地方審査会を経て、中央審査会へ推薦しています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の後、震災の体験を踏まえた内容の作文も寄せられたほか、日々の学習や身近な体験・発見から生まれた「水を大切にする心」が率直に綴られた作文もありました。これら作文の中から、今回の宮城県地方審査会における優秀作品を御紹介します。ぜひお読みいただき、皆さんが「水を大切にする心」をいつまでも持ち続けるとともに、一人でも多くの方々にその心を広めていただくようお願いします。

令和5年9月

宮城県環境生活部環境対策課

も く じ

●優 秀 賞 (4編)

- ・好きな景色と水 仙台市立郡山中学校 辻井 珠希 …………… 1
【中央審査会 優秀賞 (農林水産大臣賞)】
- ・「たった一人にできること」 石巻市立石巻中学校 遠藤 まお …………… 2
【中央審査会 佳作】
- ・海を守るために 仙台市立郡山中学校 佐々木奏夏 …………… 3
【中央審査会 佳作】
- ・「水の未来を、守りたい」 仙台市立郡山中学校 八重嶋みく …………… 4
【中央審査会 佳作】

●入 選 (2編)

- ・みんなの水 仙台市立郡山中学校 半澤 華蓮 …………… 5
- ・水が教えてくれること 仙台市立郡山中学校 大橋詩織里 …………… 6

●佳 作 (環境生活部長賞) (4編)

- ・感謝が繋ぐもの 岩沼市立岩沼中学校 大友菜々夏 …………… 7
- ・海を守るためにできること 仙台市立郡山中学校 鷹島 唯 …………… 8
- ・恩返し 石巻市立石巻中学校 平居 明哲 …………… 9
- ・明るい未来のために 仙台市立郡山中学校 青田 幸呼 …………… 10

●第45回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要 …………… 11

●「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会におけるこれまでの入賞者 …………… 13

【優秀賞】

大好きな景色と水

仙台市立郡山中学校
三年 辻井珠希

“水”と聞いてあなたは何を連想するだろう。どこまでも続く海の水、水道の蛇口から出る水、透き通った湖。世界には様々な“水”がある。そんな中、私が思い浮かべたのは、五月の見渡すかぎりに広がる水田だ。私の祖父母は農家。一面の田んぼは見慣れた景色で私はこの“田舎”と呼ばれる風景が大好きだ。田んぼは一年を通して様々な形状になる。稲作において水はとても重要。そのつながりを特に感じるのが五月に行われる田植え、そして水田だと私は思う。水田や水は稲作においてどんな役割をもっているのだろうか。

まず、水田に張られた水には主に三つのはたらきがある。

一、稲を寒さから保護する。水には「熱しやすく、冷めにくい」という性質があり、気温が低くなっても水の中は温かい環境となる。稲は熱帯で生まれた作物なので、気温が低くなると冷害の被害を受けやすい。水が温度調節をしてくれることで稲を冷害から守れるのだ。

二、雑草、病害虫の発生を抑える。田んぼに水が溜まっていると、土の中は酸欠状態になる。この状態では多くの雑草の種子が呼吸できず、芽を出すことができなくなる。また作物に悪さをする病害虫も、水が張っていると棲みづらい環境となるため数が少なくなる。

三、連作障害をなくす。同じ土地で同じ作物を毎年育てていると、病害虫などの被害を受け、収穫量が減ってしまうことがある。水を溜めることで、不足しがちな微量要素の補給ができたり、逆に過剰な成分は水が流し出してくれる。また、二つ目のはたらきで言ったように、病害虫の被害を防ぐこともできる。

このように、水田に張られた水には、多くのはたらきがある。水があることで安定して、おいしいお米を作ることができるのだ。そして水田にはお米をつくる以外にも隠しもった三つのすごいはたらきがあるのだ。

一、水のろ過。水田に入った水は、地下に浸透し、土の中のパイプのような水路を通る。この間に、ゴミなどは土の表面で、もっと細かい不純物は土の中で取り除かれてきれいな水になる。

二、洪水を防ぐ。水田の周りにはアゼという、水田と水田の間に土を盛り上げてつくった小さな堤があり、このアゼがあるために水が溜められる。アゼに囲まれた田は大雨のときに雨水をため、その後ゆっくり川に流す。田んぼは、ダムのようなはたらきもするのだ。

三、さまざまな命を育む。水田には、バッタ、トンボ、カエル、タニシ、メダカなど、多くの生き物がいる。堆肥などの有機物を分解する微生物が繁殖し、それを小魚が食べ、小魚を水鳥が食べる。クモや昆虫をカエルが食べ、そのカエルをヘビが食べ、そのヘビを猛きん類が食べる。この「食物連鎖」によって水田では多くの生き物がつながり合って生きている。

今回は水から一面に広がる水田を連想し、そこから水田に張られた水の役割や、水田の意外な一面などを知ることができた。普段見ていた水田の水にこんなたくさんのはたらきがあることにすごく驚いた。水田にも、お米を育てるだけでなく、自然への貢献があると知り、多くの人が“田舎”と言っている景色にこんなすごいはたらきがあることを知ってほしいと思った。水が透明なのは水を通して物事を見ることで沢山のことに気付くことができるからではないか。みんなにも普段近くにありすぎて意識しない水を通して物事を見てほしい。近くにありすぎて、当たり前、とさえ思わないものにも意識を向けて生活することで少しずつ社会は変わっていくのかなと、私は思った。

【優秀賞】

「たった一人にできること」

石巻市立石巻中学校

三年 遠藤 まお

先日、スーパーで「SDGs」についてのポスターが貼られていました。そのときふと思い出したのが小学生のときに、学校の授業でパソコンを使いながら「SDGs」について調べるという学習でした。そのときに、SDGsとは、「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を二〇三〇年までに解決し、より良い地球を世界中のみんなが目指していく」という計画目標のことだと知りました。

その授業で持続可能な十七の目標を調べていたとき、私は「安全な水とトイレを世界中に」という項目をみて妙な感覚を覚えました。というのも、「他の項目より簡単そうじゃないか」と思ったのです。なにせ、地球は水の惑星と言われているほどですから、他の項目と比べれば、簡単に実現できるのではと思いました。そこで私はその項目について、重点的に調べてみることにしました。

調べてみると、私の想像をはるかに超える深刻さがありました。茶色く濁った水をすする子どもや、それを飲むことによつて病気にかかつてしまう人々。特に私が驚いたのが、「日本のように安全な水が使える国は数えるほどしかない」ということでした。安全ではない水を使っていると、感染症の原因になることはもちろん、大きな影響を受ける子どもたちの中には、健康を害し、命を落とす子どもも多いそうです。そんな国が世界にはたくさんあり、日本が安全な水を使える数少ない国に属していると知り、日本に生まれたことの喜びを感じました。しかし同時に、飲料水や生活水などの水の問題で困っている国の人々のつらさや苦しみを考えると、複雑な、釈然としない気持ちになりました。

世界の深刻な状況を目の当たりにして、私は自分にできることはなにかに次に調べてみることにしました。一番に出てくることは汚水を減らすことや処理しないままの排水を半分に減らすこと、世界中で水の安全な再利用を増やすことなど、国全体で取り組まないと実現できない目標ばかりでした。そこで私は「私一人にできること」に焦点を当ててみました。「一人でできる」を中心に調べて分かったのは、生活水の節約でした。普段の生活の中でシャワーやトイレなど、水を使うものを意識してみると、自宅には意外とたくさん無駄になってしまいう水がありました。それらを少しずつ減らしていったら、生涯いくらの水が節約できるのでしょうか。これからは、水の使い方についてより多く調べて、生活水の使い方意識して暮らしていきたいと思いました。

加えて、私はまず知ることが大切だと思います。水は生きていくうえで切っても切り離せない、命に関係するものです。その水を安全に、安心して使えない国があるのだということを忘れないでいきたいです。水の問題に関心をもつて、水に関わる紛争が起きていることや、水不足による干ばつでの砂漠化が進んでいることを積極的に調べて知ることから始め、水資源の大切さや普段の水の使い方を見直し、心がけていきたいと思えます。世界の深刻な状況に目を向け人々が協力し合い、できることに取り組んでいくことが「私一人でできること」の一番最初にするべきことなのではと私は感じました。限りあるものを大切に使い、世界中のすべての人々が平等に安全な水を使用できる時代を目指して、今は私、できることをできる限りやっていきたいと思えます。

生きること必要不可欠な水を、あたりまえと思わず、大切に扱い、意識する人が一人でも増えれば、水の環境問題を解決する第一歩となるのではないのでしょうか。

【優秀賞】

海を守るために

仙台市立郡山中学校

三年 佐々木 奏夏

「母なる海」という言葉があります。私たち人類を含むあらゆる生物は、祖先が海で誕生し進化してきたと考えられています。そして食用の魚介類や海藻など、私たちは様々な形で「海の恵み」を受けて生きています。地球に海があったからこそ、水があったからこそ、私たちも生まれることができたのかもしれない。

私は以前、家族と海へ行きました。その砂浜にはたくさんゴミが落ちていました。それだけではなく、海にもいくつものゴミが浮かんでいました。私は、なんでこんなにもゴミが落ちているのだろうか、このゴミはどこからくるのだろう、と思いました。そのゴミのほとんどはプラスチックでした。私はこのゴミがどこからくるのか調べてみました。するとその大半は私たちが暮らす街からであることが分かりました。街で捨てられたゴミが水路や川に流れ出し、やがて海へと流れ着くというのです。私は、そこら辺に落ちているゴミが海の水を汚していると知って驚きました。

また、何年前かに神奈川県海岸に体長十メートルあまりのシロナガスクジラの赤ちゃんが打ち上げられたというニュースがありました。その赤ちゃんはまだお母さんの乳を飲んで育つ時期なのに胃の中からプラスチックゴミが見つかったというのです。海の水を汚すということは海にすんでいる生き物の命を奪うことにもつながります。

地球の面積の七割は海です。海は私たち人類を含むすべての生命の「ふるさと」です。人間と海の水には大きな関わりがあります。大きな関わりがあるからこそ海を救えるのもまた、私たち人間です。このまま海のゴミが増えていくと二〇五〇年には海のプラスチックゴミが世界の魚の

総重量を超えてしまうのではないかと予測されています。そうなると海の水がますます汚くなり、魚が海から姿を消すかもしれません。あるいは、プラスチックを食べた魚を人間が食べ、人間の命が危険な状態におちいるかもしれません。

そうならないために私たちに何ができるのでしょうか。海を守るために私たちにできることはたくさんあります。例えば、油を下水道へ流さないこと。日本は下水道が整備されているので何も考えたことはありませんでしたが、油を多量に下水道へ流すと冷えて固まって処理に影響を及ぼすそうです。それが海に流れこんでしまうと海の水はどんどん汚れてきます。私はこれから残った油はこして再利用したり新聞紙などに吸わせて可燃ごみとして捨てるなど、油を下水道へ流さない工夫をしていきたいです。また、洗濯やお風呂では洗剤やシャンプーを使いすぎないことも海を守ることにつながるといいます。普段髪を洗うときに出すシャンプーの量、みなさんは意識していますか。私は意識したことがなかったのでこれを聞いたとき、とても驚きました。

その他に、プラスチックゴミを減らす取り組みとして私がしていることがあります。マイエコバックを使うということです。最近使っている人もよく見かけますが、全ての人間がマイバックを使ったらどれだけのプラスチックが減るでしょうか。

このように私たちにできることはたくさんあります。それは決して難しいものではありません。海の水を守るといえることは私たち人類を守るといえることなのです。近い将来、魚が食べられなくなるといえるように、海を環境を人間が壊してしまわないように今すぐ普段の行動をみなおして実行してみましよう。

その一人一人の小さな行動が地球の未来を救うのです。

【優秀賞】

「水の未来を、守りたい」

仙台市立郡山中学校

三年 八重嶋 やえしま みく

私は、ある二つの出来事をきっかけに世界の水の問題、身近な水の問題について考えるようになった。

一つ目の出来事は、小学五年生で家族と海外旅行に行った時のことだ。海外のホテルに泊まった時、のどが渇き私は水道水を飲もうとした。すると母が「この水道水は飲めないよ。」と言った。母の一言から水道水が飲める国と飲めない国があることを知った。母の話から、日本は世界中でも数少ない安全な水道水を飲める国だと知った。世界の水道水について気になる、詳しく調べてみた。すると、世界にはもつと深刻な状況の国があることを知った。

今の世界に、安全な水を手に入れられない人は六億六千万人もいる。多くの発展途上国で子どもが池や川、整備されていない井戸から水を汲んでいる。子ども達は、水を飲むために重い水を抱えて毎日遠い道のりを歩き続けている。そのせいで学校に行く時間や体力は残されていない。日本の生活は、当たり前ではないことを改めて感じた。

二つ目は、私の母校八本松小学校の近くにある広瀬川での出来事だ。小学四年生の時、校外学習で、ニッカウイスキー製造工場を見学に行った。工場は、広瀬川と新川という二つの清流には生まれた自然豊かな場所にあった。広瀬川の上流は、水質がとてもきれいなため川の水をそのまま飲めると工場の方や先生が言っていた。川で遊ぶ時間があったので川の水をすくって飲んでみた。すごく透き通っていた。川の水だとは思えないほど、美味しくて驚いた。小学校では、毎年広瀬川で生物の観察を行っている。しかし、学校の近くを流れている広瀬川は中流、下流だったため上流

に比べて水質がきれいではないという。さらに見られる生き物も年々減少しているというのだ。私は、疑問に思った。「上流はきれいなのに、私たちのもとまで流れてくる間にどのような原因があるのか。なぜ川の生き物たちは減少してしまっているのか。」調べてみると、たくさん原因がある中で主な原因は私達「人間」の生活排水だった。生活排水とは、台所やトイレ、風呂、洗濯など日常生活で使った水のことだ。これらの生活排水には、汚濁物質が含まれている。この汚濁物質が川に流入した場合、分解しきれず川に残り汚染されるそう。特に洗剤には、りんなどの栄養塩類が含まれている。それが大量になればプランクトンが異常発生し赤潮や苦潮を発生させる。するとアサリ等の魚介類や貴重な生物に致命的な影響を及ぼすことがある。これが生き物の減少の理由の一つだ。

私は、この二つの出来事から日本での暮らしは当たり前ではないことに気付いた。川の様子から少しずつ環境が変化していることが分かる。このまま環境が悪化していくと、私達人間にまで影響が出るだろう。だからこそ自分達が直接的に関わることが少ない自然や行ったことのない国でも他人事のようにとらえてはいけないと思う。世界の現状を受けとめて自分ができることをすべきだと思う。水は無限にあるものではない。限りのあるものだから皆で大切に使わなければいけないと思う。少しの心がけで未来が変わる。顔を洗っているときに水を出しっぱなしにせず、こまめに止めるだけでも未来は変わってくるかもしれない。たったの一秒でも皆で意識をすれば大きなものになる。私は未来の水を守るために一秒一秒を、大切にしていきたい。

【入選】

みんなの水

仙台市立郡山中学校
三年 半 澤 華 蓮

「昔は、メダカも田んぼにいたんだよ。」

祖母と祖父の家にあるメダカの水槽をじつと見ていたときに叔父が言った。小学三年生のとき、私はメダカに夢中だった。叔父は、生き物が好きで、物知りだったので、メダカを飼いたいと言ったときメダカについて色々なことを教えてもらった。そのときに野生のメダカがいるということを知ったのだ。さらに、メダカはどんどん減ってきていると言われた。まだ三年生だったので、自分がなんとかできるかもしれないと思い、「なんでメダカが減っているの。」と聞いた。すると叔父は「メダカがすんでいるところの水がよれてすめなくなったからだよ。」と答えてくれた。わが家に帰って、メダカの話をしていたとき母にメダカは絶滅危惧種なのだと教えてもらった。

やっとな願のメダカを飼うことができ、大切に育てようと思った。しかしメダカは2日で死んでしまった。あまりにもお別れが早かったので悲しくなりメダカへの熱も完全に冷めて忘れてなくなった。

六年生になり、またメダカを飼いたいと思った。六年生になってインターネットで調べられるようになり、飼いや種類などを自分で調べた。そして、野生のメダカがいるという話を思い出した。同時に、青メダカはあまり強くない種だから早かったのかもねという叔父の電話の内容も思い出した。そこで、「野生で生きているメダカならきつと強いだろう。もうあんな思いもしない。」という考えが浮かんだ。すぐに野生のメダカはどこにいるのかということ調べた。野生のメダカについて調べていくと、絶滅危惧種という文字を何度も見かけた。絶滅危惧種に指定されてい

る理由は水が原因だということは分かっているが何故水がよれたのかは詳しく知らなかったので調べることにした。水がよれたのは家庭排水の流入、水田における水管理の変化、ポイ捨てなどが原因だそうだ。水質の悪化が主な原因だが、それ以外に外来種による生態系崩壊も関係しているらしい。このようにメダカが絶滅危惧種2種に指定されているのは、水が大きく関係している。さらに、サイトを見ていると野生のメダカの写真が載っていた。名前は「キタノメダカ」と「ミナミメダカ」で日本にすむ野生のメダカらしい。キタノメダカはおもに青森県から兵庫県にかけての日本海側に分布していて、ミナミメダカは東京をふくむ東北地方の太平洋側から南日本、沖縄に分布していて、自分自身が住んでいるところにはミナミメダカが住んでいるらしい。鮮やかさは観賞用メダカに及ばなくとも、透き通っていて綺麗だと思った。それと同時にこんな綺麗なメダカが絶滅してしまうのは、とてももったいないと思った。

水は人間にとっても、他の生物にとっても生きるために大事なものだ。それなのに他の生き物が住んでいる川にゴミを捨てていたり汚れた水を流していることがある。川で捨てたゴミは海に流れていき、海の生き物も、人間も困っている。綺麗な水は、いくらでもあるわけではないし、人間だけのものでもない。水質悪化の原因は、人間の生活排水だそうだ。飲み物は必要な分だけ注ぐ、細かいごみは流さずに捨てる。風呂の残り湯で洗濯をするなどの工夫をすることで汚れた水の量を減らすことができる。さらに日本では水質汚染対策として河川の水質浄化が行われているそうだ。私は「水は人間だけのものではなく、全ての生き物が必要としている」ということを忘れず、水を大切にしようと思った。

【入選】

水が教えてくれること

仙台市立郡山中学校
三年 大橋詩織里

「水」。水と言って皆が連想するのはたいてい、透明で美しく輝いている水だろう。「水」。水と言って皆が連想しないのはたいてい、茶色く濁り、車や家が流された輝きを失った水だろう。そんな輝きを失った水は、私達人間に恐怖と憎しみ、悲しみを与えるのだ。そしてそれは、心深くに傷を付け一生忘れることのないものになる。

二〇一一年三月十一日二時四十六分。東北地方は激しい揺れに襲われた。当時、名取市立関上中学校に勤めていた私の母は、震災から十二年を迎えようとしている今も、あの時見た悲惨な光景と自然の恐怖、そして水の大切さについて時には涙に声を詰まらせながら私に事細かく教えてくれる。

私が母に、東日本大震災で一番怖かったことは何？と聞くと返ってくる言葉は「津波」だった。これは母だけの回答ではないと私は思う。車が流され、家が流され、「人」が流される。その現場を見た人全員が怖いと感じるのだ。この時母は、水への恐怖を覚えたという。この恐怖は安易に想像できることではないのだ。二つ目の質問として私が聞いたのは、ライフラインが全てストップしたあの時使うことができず、一番困ったものは何？だ。母は、「水」と答えた。激しい揺れに襲われた直後、母は家庭科室へ水をくみに行った。ガスも止まっていたので、アルコールランプでお湯を沸かし、暖を取ったり、赤ちゃんの粉ミルクを作った。そんな中最も大変だったのは、トイレだという。トイレの水もちろん流れないので、移植ベラで排泄物を掬い捨てていたのだ。

東日本大震災の津波の恐怖とは比べ物にはならないが、私も一度、水に

恐怖を覚えたことがある。それは、小学校四年生の時。夏のプール開放だった。私は、五人程度乗ることができ、スポンジに乗って遊んでいた。友達と話していた。その時、何かの拍子にそのスポンジが転覆してしまい私はその下敷きになってしまった。私がスポンジの下にいると知らずに、何人かの人がスポンジの上に乗ってしまったのだ。その状態で私は十秒程度息ができなくなってしまった。息ができず、水の中もがいていたあの時を、私は忘れることができない。苦しくて、怖くて、重かった。だが、私が経験したのはたった二十五メートルのプールにすぎないのだ。そんなプールでも私に恐怖を与えた。だから、津波はそれ以上の恐怖を人々に与えた。これは後に母から聞いた話だが、母はあの津波を見た時、ああもう死んでしまうのだなと感じたそう。人間に死を覚悟させてしまうほどの水は、とても脅威的なのだ。

だが、「水」は私達人間の生活に必要不可欠だ。母から聞いた話のように、水がなければトイレも流れない、料理もできない。たったそれだけの話のようにも感じるが、水が無いだけで私達人間の生活が脅かされてしまう。

だから私達は、「水」とうまく付き合っていく必要がある。地球上には、たくさんの水がある。だが世界中で水が貴重だと言われる理由。それは、私達が利用することができる水が、地球上の全体の、〇・〇一パーセントと、極僅かだということだ。

「水」には恐ろしい一面もあるということを頭の片隅に置きながら、生活していく必要があると思う。また、「水」という限りある資源と付き合う、私達への大きな責任を一人一人が感じながら、日々生活していかねばならないのだと私は思う。

【佳作（環境生活部長賞）】

感謝が繋ぐもの

岩沼市立岩沼中学校

二年 大友 菜々夏

二〇一一年三月十一日。私が住んでいる宮城県は、東日本大震災で大きな被害を受けた。建物が壊れる。人の命がなくなる。津波は、私たちの心に大きすぎる傷をつくった。

私は、幼いころから海が好きだ。どこまでも広がっているような青くて広い海は、見ているだけで私を少し強くなった気分させてくれる。

しかし、そんな海も時には恐ろしい顔を見せるのだ。当時の私は三歳で、はつきりとした記憶は残っていない。それでも、ニュースで震災の映像を見た時、被害にあった方のインタビューに耳を傾けた時、胸が苦しくなる。普段のおだやかな海からは想像もつかない津波という姿を見て恐怖を感じる。だからこそ考える必要があると思ったのである。東日本大震災を幼いながらに、その場所で体験した一人として。どんな事が被災者のみなさんを苦しめたのか。

いちばんに思いついたことは「断水」だ。最も不便だったこと、と言っても過言ではないと考えている。

人が生きるために「水」は欠かすことができない。のどが渴いた、温かいものが食べたい、体が汚れた、トイレに行った。どんな場面でも水は必要だ。人の体の約六割は水分であり、水分を摂らないと脱水症状を引き起こす。水が不足すると、命に関わってくるのである。そんな中、断水は続いた。のどが渴いた時にすぐに水を飲むこと。寒い時には温かいスープをつくれること。お風呂に入れる、トイレを流せる。蛇口から透明で安全な水が出る——。あたりまえではないと分かっているつもりだった。しかし、心のどこかで「私の周りでは起こらない」と思う自分がいた。樂觀視して

いたのだ。

「あたりまえではない」と、再確認した今、私には何ができるだろう。何が求められるのだろう。

水を大切にする、という意味ではもちろん節水だろう。皿を洗う時や歯を磨く時、少し意識するだけで十分だと思う。それこそ、「塵も積もれば山となる」ということわざのように、「少し」が集まるだけでも、大きなものになるはずだ。

しかし、節水だけでは足りないと思っている。水を大切にする、その考え方は持つべきだ。それでも「大切にする」だけでは足りないのではないだろうか。

私たち人間は、動物や植物の命を頂いて生きている。命に感謝して食べる、ということは、誰もが聞いたことがあるだろう。それと同じように、あたりまえのように私たちの身近にある「水」にも「感謝」するべきだと思ったのだ。

蛇口をひねれば水に困らない日本人。その一方で、世界に目を向ければ、重いバケツを抱え、長い道を往復しなければ水を得られない人々。水道が通っていない地域の人々は、私たちよりも水を大切にしているだろう。得る手段は異なっても、「水を大切にしたい」というその感覚は誰でも持つべきだと強く考える。

水は限りある資源。水は生きるために必要。この二つはどちらも事実だ。だからこそあたりまえだと思わないでほしい。それは急に、目の前からなくなるかもしれない。東日本大震災は、そのことを私たちに教えてくれたはずである。

あの日、震災が起ることを誰が予想しただろう。誰も予想できない事態は、今すぐにでも起るかもしれない。水不足は、今も世界で起こっている。水に対する「感謝」が、「節水」に繋がればきっと世界は変わる。

私はそう信じている。だからこそ、私は水に感謝する人になる。そして、そのような人が広い広い海を渡って世界中に増えることを願っている。

【佳作（環境生活部長賞）】

海を守るためにできること

仙台市立郡山中学校

三年 鷹島 唯

私は二年生の冬休み、岩手にある祖父母の家に家族四人で行きました。途中、サービスエリアに寄ると、雪がたくさん積もっていて弟と二人でほったり上にのぼったりしていました。その時に、雪の中からタバコのゴミがいくつか出てきました。また、祖父母の家に向かう道路にもタバコやカイロのゴミが落ちていました。親や祖父母に聞くと、長い休みの時はポイ捨てが多いということでした。そういうゴミは川に流れることが多いらしいです。私はその話を聞いて、夏に秋田にいる祖父母のところへ遊びに行つたときのことを思い出しました。

秋田の祖父母の家は海の近くで、夏はよく海に遊びに行っていました。しかし、海岸にはプラスチックの容器、ガラスの破片、ビニール袋などがたくさん落ちていて、何か履いていないとけがをしてしまいそうでした。さらに、海にもビニール袋やタバコが浮いていました。こういうゴミを海洋ゴミといいます。また、海洋ゴミの内訳について調べてみると、一番多いのはプラスチックでした。人間が持ち込んだプラスチックが海に流れて、世界の環境が悪くなっていきます。

それは、海に住んでいる生き物にも影響を及ぼします。私は以前、テレビでマッコウクジラがうちあげられた話を聞いたことがあります。そのクジラの中からは百十五個のプラスチック、四個のペットボトル、二十五枚のレジ袋、二足のビーチサンダルが出てきたそうです。私はクジラの中から人間が使ったゴミが大量に出てきたことにぞっとしました。それに、ゴミをのみこんだのは、そのクジラだけではなく、もっとたくさん生き物が被害を受けていることに、恐怖と申し訳ないという気持ちがあまれました。

た。

海洋ゴミの七〇八割は街から出ています。さらに、海に流出するゴミのうち二〜六万トン日本から出ているそうです。私達が出しているゴミです。それが海へ流出し、海にすむ生き物が飲み込み、その魚たちを人間が釣るとしたら、結局は自分達に返ってきます。水質汚染がどんどん進み、私達も生きられなくなるかもしれません。私達には、それを防ぐ義務があると思います。一人一人が意識を変え、次の世代の未来を守る必要があると、いろいろ知ると改めて感じるようになりました。

私は、エコバックや3Rの取り組みの大切さを今知りました。いつも買い物をする時、予定よりも買すぎてしまい、エコバックに入らなくて、ビニール袋をもらうことが多いです。そういうことをなくしたら、海にとつてもいいということを学びました。だから、次から買物をするときには、計画通りに買物をしたり、エコバックを二つ持って行ったりしてみようと思います。また、私の家は牛乳パックや古い新聞紙が多いです。そういうものは、リサイクルに出すようにしています。それだけでも、水質汚染問題に貢献できると思うと、なんだかうれしいです。

このような小さな取り組みを皆でやってみたら、少しずつものきれいな海にもどるかもしれないし、たくさん生き物も救うことができます。それは、私達人間にしかできないことです。皆が協力して、やっと成し遂げられると思います。その行動は、クジラやマグロ、さけなどと自分達のため、何より海のためです。私は世界中で海を守る取り組みが進んだらいいと思います。そうして、海を大切にすることができて、初めてゴミを気にせずに海で遊べるような、小さな幸せにつながっていくのではないのでしょうか。海は、命が存在する上で欠かせないもの。その海を私達で守っていききたいです。

【佳作（環境生活部長賞）】

恩返し

石巻市立石巻中学校
三年 平居明哲

十二年前の三月十一日。私の住む宮城県石巻市は未曾有の大災害に襲われました。「東日本大震災」です。私の通っていた保育園も被災し、人々の生活は一変しました。二歳だった私はその時のことをほとんど覚えていないので、母や姉に聞いてみました。

我が家は丘陵の上にあつたため無事だったこと、保育園のみんなや両親の職場の人など二十人くらいの人が我が家に避難していたこと、水がなくて困っていたこと、隣の家のおじさんが空き地の古い井戸を見つけて、みんなでその井戸からくみ上げた水を炭火で沸かして使ったこと、給水車が来るようになったことを聞いてペットボトルやタンクを持って何度も水をくみに行ったこと、十一日後に水が水道から出た時、みんなで手を叩いて喜んだことなどを知りました。今当たり前に水が手に入る生活をしている私には想像のつかない話ばかりでした。母はそれ以来、水用ペットボトルを常備し、空になったペットボトルに水道水を貯めておくようにしていると話していました。

震災の被害を受けた人の中には、今でも津波に対して憎悪をもっている人が少なからずいると思います。

しかし、この世界から水がなくなってしまうらどうなるでしょうか。人間の体の七十パーセントは水でできていて、人間は水なしでは四〜五日しか生きられないということを知ることがあります。つまり、改めて言うまでもなく、水なしでは地球上の全ての生物は生きていくことができないのです。

私は母や姉の話聞いてから、どこかで災害が起きたというニュースを

聞くと、真つ先に「その場所に水は届いているのだろうか」と考えるようになりました。

津波という恐ろしい一面を持つ海も、普段はたくさん恵みを育ててくれます。また海から蒸発した水蒸気は雲となり、雨として大地に降り注ぎ、大地の恵みを育ててくれます。つまり、「水はすべての生物の命の源」なのです。

日本ではこの海の恵みや大地の恵み、そして「水」が当たり前のように私たちの側にあります。しかし、世界に目を向けると、それが当たり前ではない国がたくさんあります。

ユニセフのデータによると、世界では六億六千三百万人もの人々が安心して飲める水が身近になく、三百三十万人を超える子供たちが、毎日何時間もかけて池や川、整備されていない井戸まで行って水をくんでいるそうです。さらに、汚れた水を飲むことによつて命を落としてしまう乳幼児が年間三千万人もいるというのを知り、私はショックを受け、胸が痛みました。ひとつの村に一本の水道があつて、きれいな水が使えさえすれば、どれだけ多くの命が救われることでしょうか。

二月に起きたトルコ・シリア大地震の際も、水がなくて困っている人達のニュースを見ました。生徒会執行部に所属している私は、トルコ・シリアの方々のためにかできることはないかと考え、部員とともに支援募金呼びかけることになりました。街頭で募金箱を持って呼びかけをしていると、多くの生徒が協力してくれました。さらに、地域の方々の中にも募金してくださる方がいて、世界中からたくさんの方の支援をいただいた。東日本大震災の恩返しをしたいという石巻市の人々の思いが詰まった募金箱となりました。これによつてトルコ・シリアの人々に「命の水」が届くことを願っています。

世界中の全ての場所で「命の水」が使えるように、何十年、何百年先も地球が水の溢れる豊かな星であるために、限りある資源を効率よく使い、自然の恵みを大切に守っていくことが、今の私たちにできる最大の地球への恩返しだと思います。

【佳作（環境生活部長賞）】

明るい未来のために

仙台市立郡山中学校
三年 青田幸呼

私が初めて水の大切さに気づいたのは、沖縄に行ったときだった。

私は、小学生のときに家族で沖縄へ旅行に行った。沖縄の海は、透き通ったエメラルドグリーンで、想像を絶するほど綺麗だった。滞在中、シノーケルやシーウォークなど、様々な体験を通して、私は沖縄の海を体全体で感じた。沖縄で味わったあの感動を、今でも思いだし没頭することがある。

しかし、沖縄旅行から数年たったある日、ニュースで見たあることにも悲しみを覚えた。それは、サンゴの死滅だ。そして、その原因は海の環境ストレスや環境汚染にあるという。環境ストレスとは、地球温暖化による海面や海水温の上昇などがあるらしい。これらが重なって、結果的にサンゴの死滅などの生態系の破壊が起こっているという。あの沖縄の海や世界中の海が汚染されてしまうのは、とても悲しいと思った。

私が環境問題に興味を持ったのは海を直接的に感じる、という特別な体験をしたからこそであるが、我々の身近なところでも環境問題について考えられる機会はあると思う。

私が住んでいる宮城県は、牛タンやずんだ餅など、特有な食べ物がたくさんある。中でも、私が好きなのは、はらこ飯だ。はらこ飯というのは、鮭の身を煮こんだ汁でご飯をたき、鮭といくらをのせた名物料理だ。このはらこ飯には、鮭や鮭の卵であるいくらが必要不可欠で、そして私が小学生のころは秋になると毎週というほど食べていた。しかし昨年は4回ほどしか食べていない。調べてみると、鮭の不漁は海水温の上昇が主な原因ということが分かった。海の環境変化は本当に深刻なのだとしみて感じ

た。

私は、これらの問題を放っておいてはいけなさと、危機感を覚えた。そこで私は、サンゴの死滅や鮭の不漁の原因になっている、海水温上昇について調べた。調べて分かったのは「根本的な解決のためには温室効果ガスの削減が必要」ということだ。そこで温室効果ガスの削減を進めるために効果的で、日々できる対策を始めた。

一つ目は、エアコンに頼りすぎないことだ。例えば、夏に冷房を使う場合。このような時は、エアコンの設定温度を低くしすぎないようにする。そして扇風機も使ってみた。設定温度は高めになっていたけれど、意外と快適にすごすことができた。このように少しでも工夫をすることが大切だと分かった。

二つ目は、自家用車の使用を控えることだ。調べてみると、「日本の運輸部門での一年間の二酸化炭素の排出量は約一億八千五百万トン」ということが分かった。つまり日本の二酸化炭素の排出量のうち、運輸部門だけで全体の二十パーセントを占めている。内訳も調べてみると、「自家用車が約五十パーセント」になっていることも分かった。対して、バスや鉄道、自転車は合わせて「六パーセント」なので、バスや鉄道、自転車を使用する方が温室効果ガスの削減につながるのだ。

このように、毎日の小さな工夫で、地球温暖化の進行を抑えることができる。地球温暖化の進行を遅らせることができれば、私が興味を持った「海の環境変化」の問題以外にも、異常気象や大雨、干ばつなどの他の問題も解決できるのだ。今、世界中で地球温暖化の抑制が叫ばれている。地球の7割をおおっている、「水」。これを改めて考えてみてほしい。それが、明るい未来への第一歩だと私は思う。

《第45回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要》

1 作文のメインテーマ

「水について考える」（題名は自由）

2 応募資格

令和5年度に在学中の中学生

3 原稿

400字詰原稿用紙4枚以内で、日本語により表記された個人作品に限ります。

4 応募締切日

令和5年4月26日（水）必着

5 応募方法

作文には、本文の前（原稿用紙枠内）に①題名、②学校名（ふりがな）、③学年、④氏名（ふりがな）を記入し、次の送付先に示す宛先に送付してください。

6 問合せ・送付先

〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8番1号
宮城県環境生活部 環境対策課 環境影響評価班 あて
問合せ先 電話：022-211-2667（直通）
Eメール：kantaie@pref.miyagi.lg.jp

7 審査

応募作品の中から、県の地方審査会（県予選）で内容が優秀と認められる作品10編以内を選考し表彰します。また、これらの中から特に優秀と認められる作品5編以内を選考し、国土交通省の中央審査会（全国大会）に推薦します。

なお、選考に当たっては、次の観点から審査します。

- ・抽象的あるいは観念的なものでなく、日常の生活や学習、地域における水とのかかわり等を通じて得たことが、具体的に盛り込まれていること。
- ・「テーマ」が的確に設定されており、水の貴重さや水資源開発の重要性、水環境の大切さ等が、中学生らしい視点で記述されていること。
- ・将来の夢や希望、提案等が盛り込まれていること。

8 賞及び賞品

(1) 地方審査会（県予選）

- ・優秀賞：3編以内（賞状、副賞）
- ・入選：3編以内（賞状、副賞）
- ・佳作：4編程度（賞状、副賞）

- (2) 中央審査会（全国大会）
- ・最優秀賞（内閣総理大臣賞）：1編（賞状、副賞）
 - ・優秀賞：9編程度（賞状、副賞）
 - ・入選：30編程度（賞状、副賞）
 - ・佳作：中央審査会へ作文が送付された者のうち、最優秀賞、優秀賞、入選の受賞者を除く者全員（記念品）
 - ・一日事務所長体験：最優秀賞及び優秀賞受賞者のうち、希望者

9 入賞発表

- (1) 地方審査会（宮城県予選）
在校する中学校を通じて御連絡します。
- (2) 中央審査会（全国大会）
在校する中学校を通じて御連絡します。
- ※入賞作文については、作文のほか、記載された学校名、学年、氏名を国土交通省及び宮城県のホームページや作品集に掲載するほか、宮城県庁内での展示や報道機関を含めた関係者へも提供することとなりますので、予め御承諾の上、御応募ください。

10 著作権等

- ・応募作品は自作の未発表のものに限ります。
- ・入賞作品の使用権は、主催者に帰属します。
- ・応募作品の返却は行いません。

11 個人情報の取扱い

本コンクールの応募作品に記載の個人情報は、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。応募者の同意なく、利用目的を超えて転用することはありません。

12 その他

下記ホームページに募集案内を掲載していますので、御参照願います。

○国土交通省

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/tochimizushigen_mizsei_tk1_000010.html

○宮城県

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyo-t/mizusakubun.html>

「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会における本県のこれまでの入賞者

年度	賞	中学校名	学年	氏名	作品名
第1回 (S54)	国土庁水資源局長賞	仙台市立五橋中学校	3	阿部 克也	大切な水を考える
第2回 (S55)	入選	石巻市立住吉中学校	3	池田真希子	水は生命の泉
第5回 (S58)	入選	仙台市立八木山中学校	3	渡辺 保之	循環の運命をにぎるもの
第6回 (S59)	国土庁水資源局長賞	仙台市立八木山中学校	3	中村 起也	すばらしい贈り物
第10回 (S63)	入選	七が宿町立関中学校	2	村上 真希	一滴の水の中に
第11回 (H元年)	入選	仙台市立八軒中学校	2	杉渕 幹樹	潤いをもたらすもの
第12回 (H2)	入選	河南町立河南西中学校	3	遠藤 久美	水と私たち
第13回 (H3)	入選	仙台市立第一中学校	3	石川あかね	山上清水を守ろう
第15回 (H5)	国土交通大臣賞	白石市立小原中学校	1	斉藤 学	水のありがたさ
第16回 (H6)	国土庁20周年記念特別賞	仙台市立第一中学校	3	佐藤 愛	大地からのプレゼント
第17回 (H7)	入選	仙台市立第一中学校	1	渋谷 智子	水はみんなの友達
	入選	宮崎町立宮崎中学校	3	庄子 まり	水に命をかける人
第18回 (H8)	入選	仙台市立第一中学校	2	渋谷 智子	四谷用水にまなぶ
第19回 (H9)	入選	仙台市立第一中学校	3	渋谷 智子	水と共に生きる
第20回 (H10)	入選	本吉町立津谷中学校	2	三浦 大樹	貴重な資源の水
第21回 (H11)	入選	気仙沼市立松岩中学校	3	佐々木恵美	私たちが守る美しい水
第22回 (H12)	入選	仙台市立七郷中学校	3	木村可奈子	水とともに生きる
第25回 (H15)	入選	石巻市立稲井中学校	3	鈴木 舞	水が大好きな祖母
第26回 (H16)	入選	鳴子町立鬼首中学校	3	遠藤 愛子	水との絆
第30回 (H20)	入選	石巻市立石巻中学校	3	杉山 智香	水と共に生きる
第33回 (H23)	国土交通大臣賞	石巻市立石巻中学校	3	西牧 奏	水のある風景がなくなって
第34回 (H24)	入選	石巻市立河南西中学校	3	阿部 美樹	初めて気付いた“水とは何か”
第36回 (H26)	入選	石巻市立稲井中学校	2	勝然みなみ	少しの意識で変わる未来
第37回 (H27)	入選	登米市立中田中学校	3	渡邊ちなみ	「意識」を変えろ
第38回 (H28)	入選	石巻市立河南西中学校	3	土田 琴未	「水」への感謝
第39回 (H29)	入選	女川町立女川中学校	3	阿部 陽菜	感動を後世へと伝える
	入選	大崎市立古川西中学校	3	福原 史乃	未来への課題
第40回 (H30)	内閣総理大臣賞	宮城県仙台二華中学校	3	井崎 英里	時をこえて～未来へ～
第42回 (R2)	入選	仙台市立郡山中学校	3	大柿 楽々	水を守る～野蒜の地から学んだこと～
	入選	宮城県仙台二華中学校	3	西原 結花	水と共に生きる
第44回 (R4)	入選	仙台市立郡山中学校	2	増川 智穂	緑が育む美味しい水
第45回 (R5)	農林水産大臣賞	仙台市立郡山中学校	3	辻井 珠希	大好きな景色と水

令和5年9月発行

宮城県 環境生活部 環境対策課

〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目8-1
TEL 022 (211) 2667

